

第1号様式

市民との意見交換会・報告書

開催地区：行仁地区	開催日時：令和6年5月7日（火）	18時00分 ～ 19時30分
担当班：第3班（出席議員）丸山さよ子、中川廣文、高橋義人、村澤智、渡部認、（議長）清川雅史		
開催場所：行仁コミュニティセンター		
参加人数：男性 11名、女性 2名、合計 13名、（うち班外議員 0名） （ほか、地域づくり課職員1名、地域おこし協力隊員1名傍聴）		
会場の雰囲気、次回に向けての反省点、申し送り事項など 1. 意見交換の総括 (1) 議会報告、市政全般についての総括 ① 2月定例会議について 高校生への遠距離通学支援については関心が高く、支援対象者を含めて制度の柔軟的な利活用の必要性を感じた。 ② 市政全般について（市のまちづくりに向けた課題） 続発する市職員の不祥事については町内会の集まりでも話題となるようで、問題点、チェック体制について意見が出された。 (2) 地区別テーマについての総括 ① 地区別テーマ「これからの地域のつながりづくりについて」 ② テーマ設定の理由、背景 高齢化による町内会役員の後継者不足、地域のつながりの希薄化など、町内会の意義そのものや存続が、地域だけで解決できる段階を超えて行政の手助けを必要としている局面にあり、地域と議会とで課題を共有すべくテーマを設定した。 ③ 主な地域課題 町内会の解散があった。ごみ管理、側溝清掃、防犯灯の維持など、町内会への加入率低下による影響は深刻。議会や行政から積極的に知恵を出してもらい、公に加入促進を働きかけてほしいとの意見が出された。		

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項
 (含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
高校生への遠距離通学支援の対象は。	湊地区のほか、大戸地区と河東地区の一部の生徒が対象。市内遠隔地の高校生の通学については親の負担が大きいという課題からの政策提案であった。湊地区で16人、大戸地区で10人の利用を見込むが、家族が送迎している場合もあり、制度利用の状況把握はこれからになる。少しでも保護者負担の軽減につながればいい。	○	①		学校教育
高校生の通学支援について、市内だけではなく、隣接市町村の学校へ通う生徒の支援も考えてほしい。	ご意見として伺う。	○	②		学校教育
新工業団地整備について、現段階で新規に工場を建てたいという企業はあるのか。以前、会津美里町で工業団地を造成した際に、進出希望企業がなかったという例があるので、きちんと確認しながら進めてほしい。	進出の見込みがある企業約1,600社にアンケートを送付した。回答率は7%～8%（120社）ぐらいのようだが、その中で見込みのある企業が数社あるという報告は受けている。	○	①		企業誘致
「広報議会」について、あまりに文字が多くて読みにくい。絵を増やすなど見やすくする工夫が必要。また、中身を全部読めるわけではないので、簡易版の作成も考えたかどうか。	毎号、「文字が多い」「議会特有の言葉使いが多く解りにくい」というご指摘をいただく。次号に向けて、文字の大きさ、掲載内容を検討しているの で、次号以降に期待していただきたい。	●	②		議会広報紙
こどもクラブの待機児童について。城北は今年度から高学年の受け入れができなくなったようだ。他地区の空いているクラブへ行ってほしいと言われる。	調査して後日報告する。	○	③	後日調査し、事後報告する。 (事後報告書P6に記載)	児童福祉
県立病院跡地の利活用については、まだ確定していないのか。	子ども・子育て施設という方向性は確定しているが、そこに付随する施設については、現在業者を選定している段階。業者の提案はまだ議会に示されていないが、そこから市民のご意見も頂戴しながら総合的なグランドデザインを考えていく。	○	①		まちづくり

○ 地区別テーマでの意見交換について → これからの地域のつながりづくりについて

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
少子高齢化の波もあるかと思うが、行仁地区では2町内会が解散した。他の地区では一人の区長が3町内会を担うなど後継者不足は深刻。議会を巻き込んでいかないと、区長会だけでは解決できない。消滅可能性都市の話もあり、議員の皆さんと一緒に考えていきたい。	解散に至るまで何年も話し合った経過があると考え。町内会名を残したいということで合併が進まないなど、他にどんな経緯があったのか伺いたい。	○	②	
今は数世帯の町内会もあれば、400世帯の町内会もある。かつては100世帯程度で機械的に町内会づくりをしていたようだ。他の市町村ではどうなっているのか、行政のプロに入ってもらって助言をしてほしい。区長会だけでは限界がある。	ご意見として伺う。	○	②	
ルールを守らない人がおり、ごみステーションの管理が大変。町内会の加入率が低下している現状で、町内会長だけにごみの管理をさせるのはどうなのか。ルールを守らないのであれば、町内会に加入しなくてもごみを出せる場を作り、未加入世帯を誘導できるような制度ができないか行政に働きかけてほしい。	ご意見として伺う。	○	②	
区長会として、相談には乗れるが、解散しないという強制力はない。環境生活課に相談しても、細かいことは地区でやってほしいと言われてしまう。	解散までには至らないが、ある町内会が区長会を抜けるという話もあった。人が多く自由闊達に活動できた頃と違い、今は非常に深刻。ある程度の行政指導も必要かもしれない。	○	②	

○ 地区別テーマでの意見交換について → これからの地域のつながりづくりについて

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
町内会長・役員の担い手がなく頭を痛めている。行政で町内会をどのように考えているのか。手当だけの問題ではなく、若手がいな。行政で知恵を出してほしい。	ご意見として伺う。	○	②	
町内会はなぜ必要なのか。地域内で協調し、話し合う場がない。地域のつながり、町内会の在り方の原点に帰るべき。 災害があったらどうするか、向こう三軒両隣の関係性など、原点に帰れば、そこにごみ管理、防犯灯等の話はついてくる。仕組み作りが重要なので、行政からよい意見を出してほしい。		○	②	
隣近所の関係が希薄になっている。以前は地区の新年会を開いていたが、コロナ後にアンケートを取ったら参加希望が2名しかおらず中止にした。隣近所のつながりをいかに保つかが課題。		○	②	
どぶさらいについては、U字溝が深く高齢者は作業できないのでやめた。		○	②	
交通災害共済について。10年ほど前は全世帯に通知があり、200軒ほど訪問したが、今は150軒ほど。人と会ういいきっかけだと思い回っていたが若い人は加入しない。町内の人と会うきっかけ作りが必要。		○	②	
行仁小のスクールゾーンについて、学校が歩道の除雪をしないので生徒が車道に出てしまい危険。通学時間帯は車の進入は禁止だが守られていない。進入を防ぐ注意喚起をしっかりとしてほしい。	行仁小の体育館が新しくなり、日陰になった箇所は雪が凍結し危険なので市で除雪するようになった。教育委員会と建設部で通学路の認識が一致していないところもあり、確認する。	○	③	後日調査し、事後報告する。 (事後報告書P7に記載)

○ 地区別テーマでの意見交換について → これからの地域のつながりづくりについて

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
通学区域について。行仁小と東山小の選択学区となっており、地域のお祭りの際などに学校が違うから参加不可と言われることもある。 また、住所は一箕町だが行仁小に通っていると、住所が一箕町なのだから、行仁の施設は使わないでほしいと言われることもある。通学区域を考え直してほしい。	学区については通学区域検討委員会で決めているものだが、現状を把握して報告する。	○	③	後日調査し、事後報告する。 (事後報告書P8に記載)
市職員の不祥事が続発している。職場内で顔を突き合わせてのコミュニケーションが不足しているのではないか。チェック体制はどうなっているのか、気を引き締めてほしい。	議会も課題認識を持って取り組んでいる。今後も監視役として目を光らせたい。	○	②	
大雨の時に高齢者避難のメールが夜中に出されたことがあった。 (危機管理課に確認したところ、令和4年8月4日午前2時26分に緊急速報メールが出されている。内容は、河東町福島地区に「警報レベル3:高齢者等避難」を発令したことと、避難について) そういった場合の避難について市と話をした際に、私の住んでいる地域の場合、中央公園に集まってから避難所に移動したらよいのではないかと話があった。しかし、一度集まってから、また移動するのは高齢者にとって大変なので、私の町内会では、一番近い第一中学校にはじめから避難することとした。	ご意見として伺う。	○	②	

市民との意見交換会・事後処理報告書

行仁 地区

件名	処理（対応）内容	備考
1. 城北子どもクラブの状況について (P 2)	【市民からの要望・質問】 城北小学校のこどもクラブは、5年生以上は受け入れできないと聞いている。どうなっているのか。 【事後処理結果】 (5月8日 こども保育課へ確認) 城北こどもクラブの状況は、定員数160人に対し、超過受け入れを行い168人が利用中。待機児童は5年生が20人、6年生が4人いる。待機児童解消に向け、城北小学校の特別教室を利用したクラスの増設を検討しているが、放課後児童支援員の確保ができていない状況。 なお、入所審査の基準は、低学年の児童や支援を要する児童を優先している。 こどもクラブに定員を超える申し込みがあった場合は、定員に空きが出るまで待機していただくか、学区外のこどもクラブ（松長第一こどもクラブ）の利用を案内している。学区外のこどもクラブへは、市が利用料を負担して手配するタクシーで送っているが、帰りは保護者の迎えが必要になる。 【班としての意見】 市からの回答は、学区外のこどもクラブを利用できるよう、学校から学区外のこどもクラブまでタクシーで送っているとのことだが、帰りは保護者が迎えに行くことになる。現在案内している松長第一こどもクラブを利用した場合、自宅までの距離が遠くなるため、子どもは一人で帰ることはできず、保護者が車で迎えに行くことになる。 このため、利用できる世帯は限られ、また、子どもが別の学校の子どもたちとなじめるのか不安に思うなどの課題もあり、早急にクラスを増設することが必要。 議会では、2月定例会議でも待機児童への対応について審議を行ってきたが、引き続き、こどもクラブ待機児童の早期解消を図っていく必要がある。	

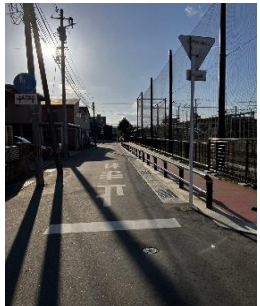
市民との意見交換会・事後処理報告書

行仁 地区

件名	処理（対応）内容	備考
2. 通学区域・選択学区について (P 4)	【市民からの要望・質問】 選択学区に住んでいる子どもたちは、隣近所でも別々の学校に通っている状況にある。同じ学校に通えるようにならないか。 【事後処理結果】 (5月9日学校教育課へ確認) 選択学区の指定については、その地域の実情や要望、児童・生徒の状況等を踏まえ、学校や地域住民の方々のさまざまなご意見を参考としながら、通学区域検討委員会において審議の上指定している。 近接する学校間において、保護者の要望を柔軟に対応することが目的である。 現在、通学区域の変更について地域から要望は出されていない。 なお、市のホームページに記載されている通学区域早見表では、選択学区の地域に住んでいる場合、指定校のほかに選択できる学校が表示されており、入学前に住んでいる地域の学区を確認できる。 【班としての意見】 大戸小・中学校は、市内在住の児童生徒であれば、学区外から通学できる小規模特認校制度が導入され、大戸学区外から通学している児童・生徒がいる。 また、学区内の学校ではなく、学鳳中学校やザベリオ学園に通学している児童・生徒もいる。選択学区についてもそれぞれの家庭の判断により学校を選択している実情にある。参加者のご意見は地域と子どもたちとの関わりが希薄になるのではないかというご心配かと受け止める。班としても、地域と子どもたちとのつながりは大事なことでと認識しており、通う学校が違っていても交流できる機会や、放課後や長期休み中の子どもの居場所等について考えていく必要がある。	

市民との意見交換会・事後処理報告書

行仁 地区

件名	処理（対応）内容	備考
3. 行仁小学校南側歩道の除雪について (P 5)	【市民からの要望・質問】 行仁小学校南側歩道を除雪していないため、児童が車道を歩いており、車両が脇を通ると危険な距離ですれ違う状況にある。 【事後処理結果】 (5月21日 建設部道路課へ確認) 歩道については、学校敷地内に設置しているため、建設部の除雪対象区域から外れており、除雪は行っていない現状にある。 (5月20日 教育委員会へ確認) 歩道については、教育委員会の管理となることから、今後の降雪期に向けた歩道除雪の在り方について学校と協議を進めていく。 【議会として】 以上のことから、今後の歩道の通学路としての在り方について、教育委員会の検討内容を確認していく。	 (東側から)  (西側から)